

2018年3月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

## 「活・人・経・営」コラム第67回

### <負けを生かす>

2月13日、将棋で永世七冠を達成した羽生善治氏（47歳）と囲碁で七冠独占を2回成し遂げた井山裕太氏（28歳）への国民栄誉賞表彰式が首相官邸で開かれました。お二方は天才中の天才と評されていますが、特に羽生氏は15歳でプロ入りし、今日に至るまで約32年間で七つ全てのタイトルで永世称号を獲得するという大記録を達成しました。

羽生氏は2018年2月15日時点で、日本将棋連盟の資料によると、公式戦で1394勝564敗という成績を残していますが、総対局数の約30%は負けていることがわかります。ところが羽生氏は常にこの敗戦から多くを学び、これらを積極的に成長の糧にして勝利を積み上げてきたそうです。

経営の世界でも、減収・減益や赤字に陥った時こそ変革のチャンスと捉えて、現状を総合的に分析し、新たな企業価値向上の目標を掲げ、それに積極的に挑戦しているところが成長路線を歩んでいます。そしてこのような企業は苦境を乗り越えた貴重な経験を生かして、改善活動を切らさず継続しています。

先般2月17日、将棋界で若干15歳の中学生プロの藤井聡太氏が某公式戦トーナメントにおいて多くの高段者（現役名人や羽生氏など）も含めて堂々と勝ち進み、この棋戦で優勝しました。ビジネスの世界でも同じように、デジタル化の波に乗って、新興企業が老舗大企業をしり目に大きな成長路線を歩んでいます。最近の傾向として分野を問わず新旧交代が激しく、時代の変化はスピードアップしていますが、人も組織も長期的な成長を続けるためには、負けや失敗から学んだ教訓を明日に向けて積極的に生かし続けていきたいものです。

### <積極精神を育てよう>

本当の積極心とは、消極に相對する積極ではなくして「絶対的な積極」を指します。つまり心はその対象なり、相手なりに、決してとらわれることのない状態が絶対的な積極心です。他人や何かの物事に執着することがない、心に雑念や妄念、あるいは感情的な恐れなどが一切ない状態です。

また、決して張り合おうとか、対抗しようとか、打ち負かそうとか、そういったような気持ちでなく、もう一段高いところにある気持ち、境地が絶対的な積極です。終始、平静で安定し、いつも明朗、生き活きと勇ましい心のことで、これが本然の心と言われる心です。

— 出典：「天風入門」南方哲也編著（財）天風会監修 —